

まえがき

戦後、わが国鉄鋼界の成長は設備合理化新設備の建設拡充があいついで行なわれ、技術面の進歩とあいまつて鉄鋼産業の変遷とその躍進はめざましいものがあります。

今や日本の粗鋼生産量は昭和36年で約3000万tに達する伸張で、世界第4位の鉄鋼生産国の地位を占めるにいたり、世界鉄鋼界から注目されております。

このかげには、昭和24年通商産業省、日本鉄鋼協会ならびに日本鉄鋼連盟の強力な援助の下に鉄鋼共同研究会が発足し、鋼材部会はその一部門として分科会を組織し今日まで活動してまいりましたが、各分科会の研究努力が日本鉄鋼業界の技術の発展に寄与した偉大なる功績を見のがすことはできません。

現在鋼材部会には圧延理論、鋼管、分塊、厚板、中小形、線材、薄板、帯鋼の8分科会があり、数多の鉄鋼会社の協力とその推薦委員の努力により、今日まで長期間研究討議が続けられてまいりました。

このたび鋼管分科会においては、鋼管の生産技術の研究を貴重な参考資料として編集し出版することになりましたが、鋼管の生産量は昭和26年の29万tに対し、昭和36年には170万tと約5.8倍の伸びを示し、とくに溶接鋼管は11.5倍と目ざましいものがあり、最近の溶接鋼管の占める比率からみるとアメリカ製管業界に非常に類似した傾向を示しております。このような、日進月歩の発展を「鉄と鋼」に報告し、鉄鋼業にたずさわる方々に広く御披露することにより、今日および将来の鉄鋼技術の向上、改善に役立てば幸甚に存じます。

終わりに本編の編集出版は尽力された鋼管分科会の各委員ならびに多大なる協力下されました関係各位に深く感謝の意を表する次第であります。

昭和38年4月22日

日本鉄鋼協会共同研究会

鋼材部会長 平 世 将 一